

2021年4月21日

一般社団法人 グリーンピース・ジャパン
事務局長 サム・アネスリー 様

トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長 豊田 章男
日産自動車株式会社
代表執行役社長 兼
最高経営責任者 内田 誠
本田技研工業株式会社
代表取締役社長 三部 敏宏

拝啓 晩春の候、貴法人におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2021年4月16日付の貴信を拝受いたしました。

私どもが所属する日本自動車工業会では、2050年にカーボンニュートラルを目指すことと菅総理が宣言されたことは、この国を母国として働く我々自動車産業にとって大変ありがたいことと認識しております。この方針に貢献するため、自動車業界を挙げて、全力でチャレンジすることを決定しております。

私どもは、カーボンニュートラル社会という未来を実現することが自動車産業の役割であると思っております。日本には、「電動車フルラインナップ」と「省エネ」という強みを持った自動車産業があります。コロナ危機の中でも日本の移動を支えてきた、サプライチェーンを含む550万人の自動車産業の仲間がいます。電動車を積極的に受け入れ、育ててくださるお客様もいらっしゃいます。そして、未来のこと、次世代のことを考えて行動する企業や国民の皆様がいると思います。私どもは、みんなで力をあわせて、「日本の未来」を一緒につくっていきたくと考えております。

一方で、2050年カーボンニュートラルは、画期的な技術のブレークスルーなしに達成は見通せず、サプライチェーン全体で取り組まなければならない、大変難しいチャレンジでもあります。さらに、「エネルギー政策と産業政策をセットで考えることが必要」であると思っております。この点について、諸外国の電源構成や再エネのコストを例示させていただき、「安価で安定したカーボンニュートラル電力の供給が不可欠」であることをご説明しております。

2030年をカーボンニュートラルに向けた一つの重要なマイルストーンと考え、私どもも、積極的に取り組みを進めて参ります。また、カーボンニュートラルの実現には、「カーボンニュートラルに関する正しい理解」を共通認識にして進めることが大切であると考えております。政府を含めたステークホルダーの皆さまとの間で、引き続き、事実に基づいた情報の発信と対話を続けてまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

敬 具